

火山に関するニュース・話題

桜島

5月9日早朝、鹿児島県の桜島で爆発的噴火がありました。噴煙の高さは火口から4200メートルに達したと推定されており、昨年11月8日以来の規模の噴火でした。桜島に限らず、九州の火山活動は活発な状態が続いているようです。

富士山噴火についての一考察

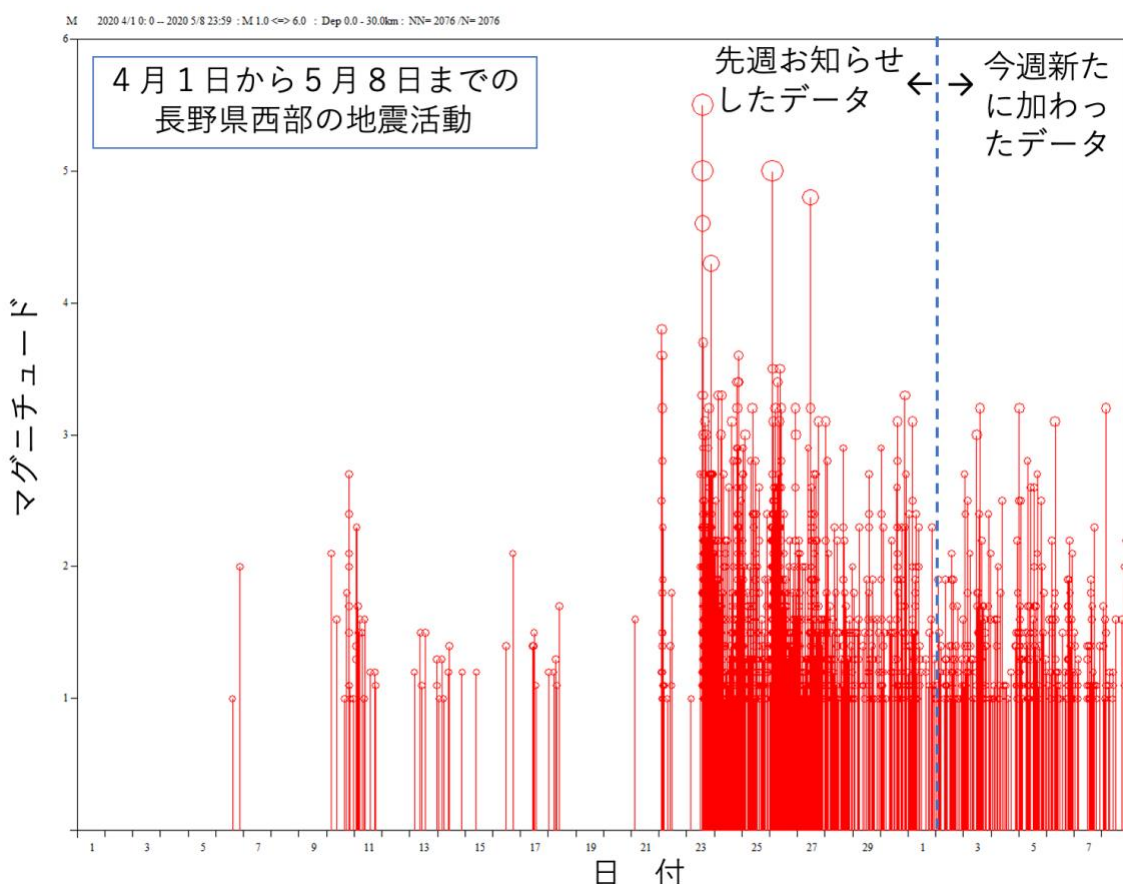
名古屋大学減災連携研究センター長の福和伸夫教授が、ヤフーニュースに寄稿しています。DuMA/CSOも福和教授とは定期的にお会いするチャンスがあり、意見交換を行っています。ぜひこの記事をご一読下さい。

福和伸夫「万一、富士山が噴火したら首都圏はどうなる？」

<https://news.yahoo.co.jp/byline/fukuwanobuo/20200507-00176875/>

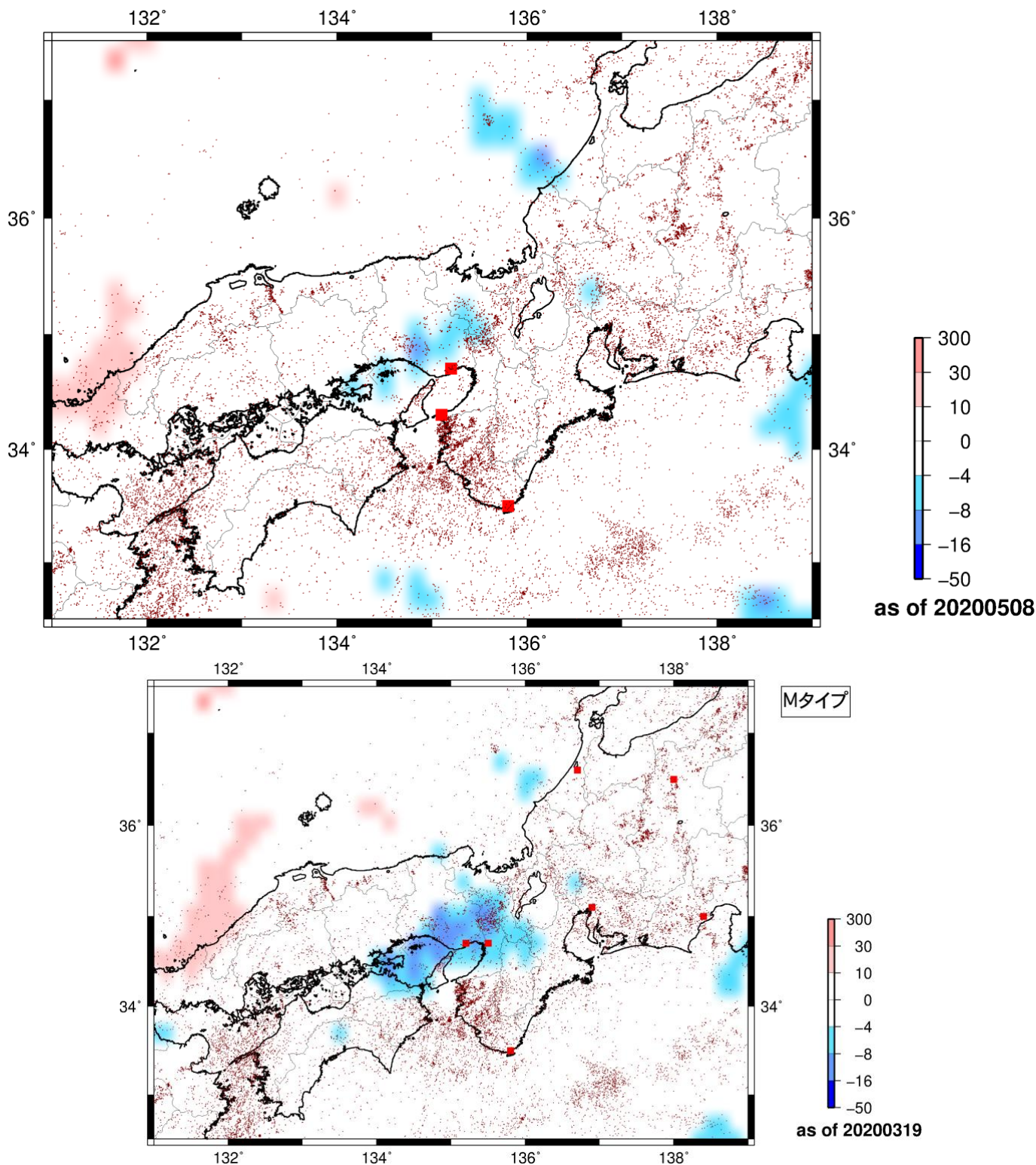
4月23日以降続いている長野県西部(上高地周辺)の地震活動について

5月4日のニュースレターでこの話題に触れましたが、まだ活動は継続しています。このような浅い所で発生した群発地震の場合、それがさらに大きな地震発生に繋がる可能性は低いのですが、今回の長野県西部の場合はもう少し状況を見る必要がありそうです。引き続き活発な地震活動が続いています。



中部・近畿・中国・四国地方の地下天気図®

3月23日のニュースレターに引き続き、中部地方から中国・四国地方にかけての地下天気図です。これまでMタイプの地下天気図に2018年の大阪北部地震の異常終了後、再び青い地震活動静穏化の異常が出現していましたが、これがほぼ解消したことがわかりました。次にお示しする地下天気図は5月8日時点のMタイプ地下天気図です。



参考：3月19日時点の地下天気図



今週号では、神戸と和歌山と串本(前ページ上の図の中の■)における地下天気図時間変化グラフを掲載します。神戸のグラフを見ますと、まだ完全に静穏化が解消した訳では無い事がわかります。また和歌山、串本はほぼ完全に静穏化が解消していますが、静穏化の程度(マイナスの値の大きさ)があまり大きくはなかった事がわかります。

現時点で地下天気図解析から言えるのは、大阪北部地震以降の2度目の静穏化異常は大阪北部地震前ほど顕著なものでは無かったという事です。

